

久保のもぐらうつ



豊作を願い元気よく地面を叩く子どもたち

1月12日、末吉町南之郷久保で戦前から続く小正月の伝統行事「もぐらうつ」が行われました。

田畑を荒らすモグラを退治して五穀豊穡を願うこの行事は久保集落の伝統行事です。少子化で存続が危ぶまれていましたが数年前から校区で協力し、今に受け継いでいます。

本年も檉小の有志と現在は校区外に居住する久保出身者のお子さん約30名が参加。「もぐらうつ！」の元気なかけ声と共に、藁の棒で地面を叩く音が一年ぶりに響きました。

支え合いつながり合う地域を目指して



写真や図でわかりやすく解説する長友さん

2月1日、末吉総合センターで「第9回曾於市女性大会」が開催されました。

オープニングでは末吉女性連の踊りと財部女性連の民謡が披露され大会に花を添えました。食のアドバイザーとしてテレビやラジオで活躍中の長友ゆかりさん（管理栄養士）が登壇し「正しく食を選ぶ能力は一生の財産」と題し、講演を行いました。長友さんは「子どもにしっかり食べさせ、必要な栄養知識や食品情報を伝えてください」と話しました。

市観光協会理事と市議会文化観光議員が観光視察



悠久の森の説明に聞き入っている参加者

1月21日、市観光協会理事と市議会文化観光議員連盟が市内の観光地を視察しました。案内は、曾於市観光特産開発センター所長で観光協会理事の吉川益夫さんが行いました。

大川原峡、悠久の森、桐原の滝、三連轟、溝ノ口発電所を視察。バスの中では、観光センターの取り組み、現地では岩石や植物等についての説明を受けました。参加者は「ガイドの説明を受けながらの観光は初めて。今までと違った観光を知ることができました」と満足していました。

市民の人権を守っています



左から持田さん、五位塚市長、津留さん

12月31日付けで、人権擁護委員として6年間（2期）にわたり活動された持田初穂さん（大隅町あけぼの）が退任されました。同委員として永年尽力された持田さんには法務大臣と鹿児島地方法務局から感謝状が贈られました。持田さんの後任として津留伸二さん（大隅町あけぼの）に1月1日付けで法務大臣から委嘱状の交付がありました。

人権擁護委員の皆さんは、各種活動をとおして、市民の人権を守るために尽力されています。



5千人目の入館者となった吉留さん（左から2番目）

山中貞則顕彰館5000人突破

1月30日、山中貞則顕彰館の入館者が5千人を突破しました。

同施設は、昨年4月に山中貞則氏の功績を顕彰すると共に地域の憩いの場として設置され、年間5千人の目標を一早く達成することができました。

施設内では、山中氏の生涯をビデオやパネルで振り返ることができ、また特別展示なども随時行っています。

5千人目の吉留行雄さん（財部町）は「山中さんの抜群の勇氣と度胸にほれ込んでいました」と話しました。



左から市長、平井さん、福永さん

青年海外協力隊の活動を終えて帰国報告

1月21日、平井香織さん（末吉町）が、2年間の青年海外協力隊での活動を終えて国際協力推進員の福永さんと市長を敬訪問されました。

平井さんは、マラウイ共和国（アフリカ大陸南東部）の特別支援学校で、児童の言語指導と教育者の育成に言語聴覚士として活動されました。

帰国後の現在は、大学院に在学しています。「今後は、青年海外協力隊の経験を活かしながら、言語聴覚士として、臨床の場で頑張っていきたいです」と話しました。



なかどうそ 中堂園選手へ棒を渡す 平川選手

沿道の声援を力に

2月14日から16日にかけて、第62回鹿児島県下一周市郡対抗駅伝競走大会が開催されました。

4日目は帯野、財部、末吉、大隅の市内4中継所を選手が通過しました。各中継所では地元女性部による手作りお菓子や飲み物の振る舞いがあり、選手たちは疲れきった身体を癒やしていました。6区（大隅―伊崎田）を走り終えた有馬啓司選手（大隅町）は「沿道からの声援が力になりました。来年はもっといい走りができるようにがんばります」と話しました。



市内の田の神が来場者をお出迎え

田の神さあ全員集合！

現在、おおすみ弥五郎伝説の里まつり館で、文化財愛護ボランティアグループ「その歴史を愛する会」による田の神を紹介したパネル展が開催されています。

市内の田の神を一堂に集めた初の試みで、現在のところ市内では121体が確認されています。様々な表情や格好をした田の神さあたちが我々の目を楽しませてくれます。また、まだ未確認の田の神もあると思われる、情報提供も呼びかけています。パネル展は3月31日まで開催されています。